

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成30年3月)

～円高・株安の下、現状判断は3か月連続の低下～

- 景気ウォッチャー調査・3月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]は3か月連続で低下した一方、先行き判断は2か月ぶりの上昇となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、インバウンド市場は引き続き堅調な推移をみせたほか、気温が高めに推移し、春物商材の動きにプラスとなったものの、円高・株安の動きが重石となった。特に株安の悪影響について、高額消費の鈍化や、消費マインドの低下などが指摘されている。
- 一方、先行きについては、インバウンド市場では堅調な動きが続くとみられているほか、高騰が続いていた野菜価格も落ち着くことが予想されている。また、賃上げによる消費への好影響を期待する声も聞かれる。
- ただし、米中間の輸入関税の導入による、貿易摩擦の悪影響を懸念する声も多い。先行きは引き続き不透明感が強く、円高・株安を警戒する声も少なくない。

「円高株安」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	変わらない	百貨店(販促担当)	・気候の寒暖の変化による好不調の波はあったものの、月後半の桜の便りとともに、衣料品、雑貨は活発に動き出している。一方、来客数は少し前年を下回り、それに伴って食品もやや苦戦している。高額品は株価の不安定な動きから、様子見の雰囲気が出ている。
		百貨店(売場マネージャー)	・春物婦人衣料の動きは前年並みである。比較的暖かい日が多く、シャツはよく売れたが、羽織物は苦戦した。また、購買はますます実需型になっている。株価が不安定なため、このところ好調であった高級輸入雑貨の伸びも鈍化しつつある。
		その他専門店[宝石](経営者)	・株価がここ1か月の間にかなり下がったため、客は精神的に少し不安な状態となっている。
		その他専門店[スポーツ用品](経理担当)	・好景気の実感はない。株価の急速な下落も、景気的不安定感を演出している。
		旅行代理店(営業担当)	・株価の不安定化や円高などの不安要素もあり、なかなか個人消費の拡大につながらない。
	なっている	スーパー(経営者)	・月前半は、季節商材の大幅な相場高で販売量が落ち込んだほか、中旬は土日やお彼岸などの悪天候で来客数が落ち込んだ。また、下旬は前年に比べて大幅に気温が高かったほか、商品の相場が急落するなど、天候や相場に大きく翻弄された。全体としては、円高や株安による景気悪化懸念もあり、生鮮品の相場が上がると、少し良い物の動きが悪くなっている。
企業動向関連	変わらない	電気機械器具製造業(経営者)	・現時点ではやや良くなっているが、長らく続いていた円安が、徐々に円高傾向となっている。さらに、国際情勢も確実に危険な方へ向かっている。これまで長く平和な時代が続いてきたが、大変な危機に不安を感じている。
	なっている	広告代理店(企画担当)	・株価の不安定化に、野菜価格の高騰なども重なり、身の回りでは景気への不安感と、生活へのストレスが感じられる。その影響で、取引先の商業施設でも、消費の勢いが少し弱まっている。

「春物商材、気温」関連のコメント(現状判断)

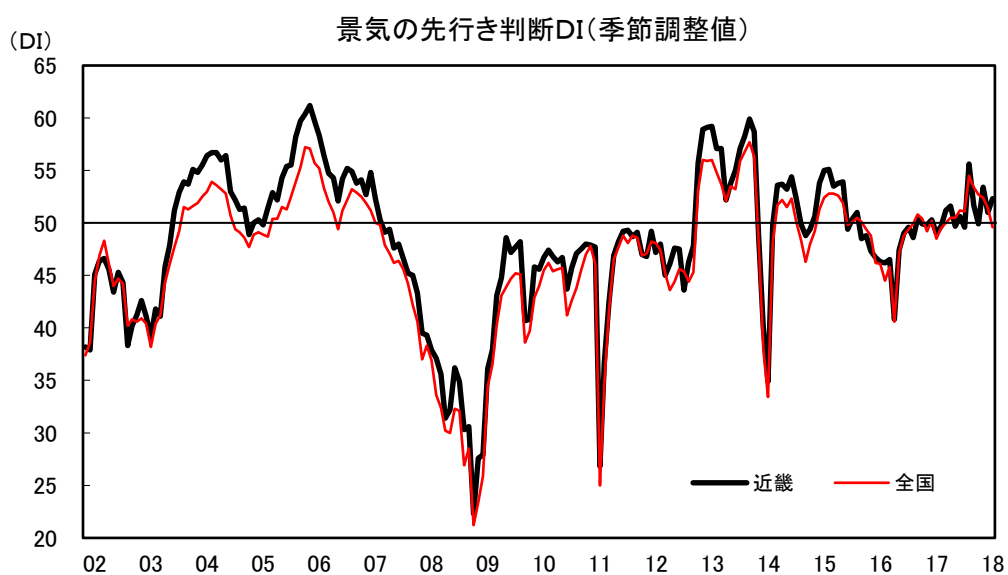
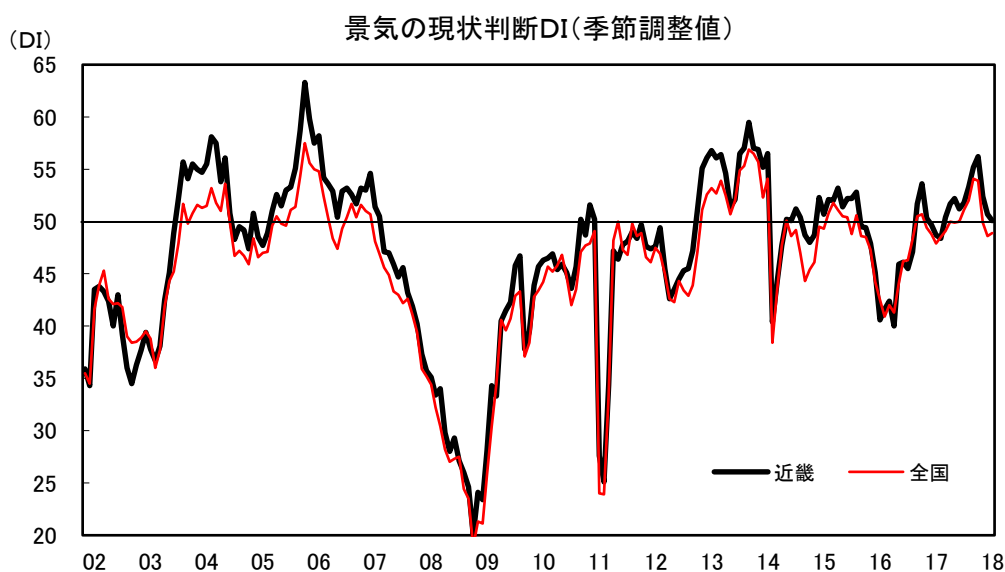
家計動向関連	やや良くなっている	百貨店(営業担当)	・今月の中旬から寒さも和らぎ、富裕層による、春物の高級衣料品や高額ブランドの宝飾品の購入が増えている。
		百貨店(マネージャー)	・3月は気温が前年よりも最高、最低気温共に約3度高く、春物衣料が好調な動きとなっている。また、桜の開花が早まり、京都を訪れる訪日外国人による免税売上も好調で、売上は前年の2倍となっている。街全体が国内外の旅行者による経済効果で活気にあふれている。
		スーパー(企画担当)	・前年よりも早くから気温が高くなることで、飲料や涼味関連商品が一気に売れ出している。また、花見や行楽、春休みなどの催事企画もあいまって、好調に推移している。
		コンビニ(経営者)	・気温が上昇するなかで、20～24時頃の客も増え、来客数は前年比で5%ほど増加している。
		コンビニ(店員)	・少し暖かくなり、春休みにも入ったので、来客数が増えている。

家計動向関連	変わらない	百貨店（販促担当）	・気候の寒暖の変化による好不調の波はあったものの、月後半の桜の便りとともに、衣料品、雑貨は活発に動き出している。一方、来客数は少し前年を下回り、それに伴って食品もやや苦戦している。高額品は株価の不安定な動きから、様子見の雰囲気が出ている。
		百貨店（マネージャー）	・中旬以降の気温の上昇もあり、婦人服を中心にスプリングコートなどのファッション商材は堅調。ホワイトデー商戦では、従来型のハンカチなどは不振で、チョコレートなどの食品に、需要が完全に移行している。全体的には緩やかな節約志向がみられる。一方、新たなコト消費を含む形での物販は、予想どおり好評である。
		百貨店（売場マネージャー）	・春物婦人衣料の動きは前年並みである。比較的暖かい日が多く、シャツはよく売れたが、羽織物は苦戦した。また、購買はますます実需型になっている。株価が不安定なため、このところ好調であった高級輸入雑貨の伸びも鈍化しつつある。
		百貨店（宣伝担当）	・インバウンドの売上が、春節のあった前月を上回る勢い。航空運賃が安いこともあり、訪日外国人の数が前月よりも多い。また、今日は天候が良かったことから、入店も前年比でプラスとなっており、婦人服や紳士服などの春物商材もよく動いている。
		スーパー（経理担当）	・想定した以上に気温の上昇が早く、花見需要の時期が早まるなど、売場との連動が今一つ取れていないせいか、売上は伸び悩んでいる。
		スーパー（社員）	・今年は例年以上に厳しい寒さとなり、前月まで冬物商材の動きが食品、日用品共に良かった。競合店が増加して、店頭への来客数は減少しているものの、客単価の上昇が続いており、売上は全店で堅調に推移している。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・雨の日や寒い日が多かったため、来客数が減っている。1人当たりの単価も千円前後に下がり、売上の目標達成率は70%にとどまっている。必要最低限の物しか購入しない客が多い。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・ようやく寒の戻りも一服し、野菜価格の高騰も落ち着いてきた。春らしい暖かさが感じられる日も多くなったため、今後の春物商材の動きに期待している。
	やや悪くなっている	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・来客数の減少に伴い、販売量も減っている。春物衣料の立ち上がりも悪い。寒さが一気に暑さになっていくなかで、夏物衣料の動きはまだみられない。
		百貨店（販売推進担当）	・春物衣料の動きが若干悪い。
スーパー（経営者）		・月前半は、季節商材の大幅な相場高で販売量が落ち込んだほか、中旬は土日やお彼岸などの悪天候で来客数が落ち込んだ。また、下旬は前年に比べて大幅に気温が高かったほか、商品の相場が急落するなど、天候や相場に大きく翻弄された。全体としては、円高や株安による景気悪化懸念もあり、生鮮品の相場が上がると、少し良い物の動きが悪くなっている。	

「米中による輸入関税、貿易摩擦」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	変わらない	百貨店（営業担当）	・インバウンドや富裕層の購入は順調に推移すると予想するが、米国の輸入制限などによる円高、株安の影響もリスクであり、見通しは不透明である。中間層の節約志向も回復する見込みが感じられない。
		百貨店（商品担当）	・米国大統領による突然の輸入関税の導入で、貿易摩擦への懸念から、米国経済の悪化が予想される。日本にも大きく影響し、株高の資産効果で順調であった購買意欲が下がる懸念もあるため、決して良い見通しはもてない。
		コンビニ（広告担当）	・国内では4月からビールや公共料金などの値上げが行われ、海外は米中貿易摩擦や北朝鮮、ロシア関連のマイナスイメージで揺れ動いている。それに伴い、株価も影響を受けている。年初には、景気が良くなるという予想もあったが、不安要素の増加により、良くはならない。
		テーマパーク（職員）	・日本銀行の総裁の続投が決まり、大きな金融政策の転換はなさそうなので、当面は劇的に経済状況が変わるとは考えにくい。しばらくは今のようない状態が何となく続きそうである。消費税増税については、一連の北朝鮮問題や米国による輸入関税の導入がどのように影響するかが不透明である。
	やや悪くなる	百貨店（マネージャー）	・国内では、国有地売却関連の問題で内閣支持率が低下し、国外では米中の貿易問題などの影響で、政治的なリスクが高まっている。どう転がるかはもちろん不透明であるが、これまで堅調に推移してきた富裕層の消費に、様子見ムードのリスクが出てきており、楽観はできない。
		百貨店（外商担当）	・米国の通商政策などにより、株価が下がることが予想され、富裕層の購買意欲が低迷する。
		スーパー（店長）	・米中間の貿易摩擦で株安、円高基調が続けば、富裕層を中心に個人消費が厳しくなる可能性がある。ただし、川下のスーパーまで影響が広がるまでには時間が掛かる。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・米国が仕掛けた貿易戦争による弊害が、これから2～3か月の間に少しずつ出てくる。特に米国に対する輸出について、自動車を中心としたメーカーが打撃を受ける。
		観光型旅館（管理担当）	・北朝鮮が米国や中国と対話を行うなかで、日本が取り残される印象があり、市場では不安感が増す。
	な悪く	一般小売店〔野菜〕（店長）	・仮に貿易戦争が始まれば、非常にまずい状態になるほか、安倍首相が辞めることになると、日本は厳しい状況になる。
企業関連	くやな悪	金属製品製造業（経営者）	・米国による鉄鋼輸入関税で、鉄鋼関連の市場では警戒感が強まる。
	な悪く	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・米国大統領による輸入関税の導入で、世界の経済状況が悪くなっている。今後、日本がどのような対策を取るのかは不透明である。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 16												17												18		
		月 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
現 状 判 断	近畿	40.6	41.6	42.4	40.0	45.9	46.1	45.5	47.1	51.7	53.6	50.3	49.7	48.7	48.4	50.4	51.7	52.2	51.2	51.8	53.3	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1		
	(全国)	42.5	40.9	42.0	41.3	44.1	46.2	46.3	48.3	50.5	50.7	49.4	48.8	47.9	48.5	49.1	50.0	49.9	50.0	51.1	52.0	54.1	53.9	49.9	48.6	48.9		
先 行 き 判 断	近畿	46.3	46.2	46.5	40.8	47.4	49.0	49.6	48.6	50.4	49.9	49.8	50.3	49.0	49.7	51.2	51.6	49.7	50.6	49.6	55.6	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3		
	(全国)	46.1	44.5	45.8	40.6	47.1	48.8	49.4	49.9	50.8	50.4	49.2	50.2	48.5	49.5	50.0	50.5	50.5	51.2	51.1	54.5	53.4	52.7	52.4	51.4	49.6		